東京 明治十七年七月三日 木曜日 第七百一號 日曜日休刊 定價金三錢

## 公報

○海軍省達丙第百五號 海軍一般
主船局所轄小野濱海軍造船所條例左ノ通相定ム此旨相達候
事
明治十七年七月二日 海軍卿 川村純義

小野濱海軍造船所條例

第一條 小野濱海軍造船所ハ主船局ニ屬シ艦船汽機及ヒ其屬具等ヲ製造修理スル所トス
第二條 所内ニ庶務造船計算ノ三課ヲ置キ各其事務ヲ分掌セシム
第三條 庶務課ハ所長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ監護ヲ管シ所内一般ノ警護幷ニ他ノ主管ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス
第四條 造船課ハ艦船及ヒ汽機汽罐幷ニ其屬具ノ新製改造修理等ノ事ヲ掌理ス
第五條 計算課ハ經費金錢ノ出納所内需用物品ノ買辨貯藏及ヒ土木營繕其他會計ニ關スル一切ノ事ヲ掌理ス
第六條 所長一人六等官以上ヲ以テ之レニ充テ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ幹理ス
第七條 所長ハ主管ノ事務ニ於テハ主船局長ニ對シ其當否ヲ辨明スルコトヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス
第八條 所長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ主船局長ニ具狀スルコトヲ得
第九條 所長ハ工夫或ハ日給五十錢以下ノ雇員ヲ進退黜陟スルコトヲ得
第十條 所長ハ課務ヲ分テ掛ヲ設クルコトヲ得
第十一條 所長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得
第十二條 所長ハ所員ヲ十五里內ノ地ニ派出セシムルコトヲ得
第十三條 所長ハ判任以下ノ除服出勤ヲ命スルコトヲ得
第十四條 所長ハ營業豫算內ヲ以テ機具物品ヲ買辨スルコトヲ得
第十五條 所長ハ營業豫算內ヲ以テ所屬ノ船舶及ヒ諸建築等ノ破損ヲ復舊修繕スルコトヲ得
第十六條 所長ハ內外官民ノ需メニ應シ船舶及ヒ機械ヲ修理スルコトヲ得
第十七條 課長各一人八等官以上ヲ以テ之レニ充テ所長ノ命ヲ受ケ各其主務ヲ擔任ス
所長事故アル片ハ造船課長其代理ヲ爲スコトヲ得
第十八條 造船課ニ監職若干人ヲ置キ常ニ工場ニ在ツテ工手工夫以下ヲ監督シ課長ノ命ヲ受ケ各分掌ノ工業ヲ擔任セシム
第十九條 各課ニ課僚若干人ヲ置キ課長ノ命ヲ受ケ各其主務ニ從事セシム
第二十條 課長事故アル片ハ先任ノ課僚其代理ヲ爲スコトヲ得

○文部省達第六號 府 縣
當省明治十四年(七月)第二十八號達中學校教則大綱第十一條本文中(ノ通シテ六箇年トス)ノ八字ヲ削除ス此旨相達候事
明治十七年七月二日 文部卿 大木喬任

○大藏省告示第八十五號
明治十六年十二月第四十七號布告中山道鐵道公債證書千圓五百圓百圓三種ノ見本各府縣廳幷ニ日本銀行本支店幷ニ各代理店等ヘ下渡候條此旨告示候事
明治十七年七月二日 大藏卿 松方正義

## 時事新報

### 支那帝國海軍ノ將來如何

地ヲ有スル九十萬方里人アルコ四億餘萬、支那ハ實ニ世界ノ大國ナリ國大ナレハ財多ク力強キハ一般ノ定則ナルカ故ニ此支那帝國ノ兵力果シテ強盛ナルヘキ筈ナレ𪜈今日マデ支那ガ外國ト爭端ヲ構ヘテ曾テ花々シク戰爭ニ打勝チタル例ヲ無ク交戰トアレハ常ニ敗北シ適々交戰ニ至ラザル片ハ又和ヲ乞テ局ヲ結ブハ英國ニ對シ露國ニ對シ又佛國ニ對シテ皆然ラザルハ無キナリ蓋シ人ノ說ニ日ク支那ノ兵力決シテ弱ナラズ特ニ近年ニ至リテハ其海軍モ振興シテ軍艦大砲專ラ西式ヲ取リ遠カラズシテ東洋第一ノ海軍國タルニ至ルベシ嗣三年以前迄同國ノ海軍ハ軍艦六十餘艘ヨリ成立ツトノコトナリシニ既ニ今日ニテハ增シテ百有餘艘ニ登リタリト云ヘハ支那ノ海軍容易ニ輕侮ス可ラズ之ト對峙スル邦國ニ於テハ豈ニ戒心セザル可ケンヤト然レ𪜈我輩ノ知ル所ヲ以テ之ヲ斷スルニ此說タル寧ロ支那海軍ノ威光ヲ怖レ過ギタル者ニシテ適切ノ言ニ非ズト思ハル若シ支那ノ海軍ヲシテ今日ノ有ノ儘ナラシメン歟其軍艦百餘艘アリト雖𪜈固ヨリ恐怖スルニ足ラズ然レ𪜈邦國進歩ノコハ三日見ザレハ刮目シテ待タザル可ラズ今日恐ルヽニ足ラザルノ支那海軍モ明年トナリ又明後年トナルニ至ラハ如何樣ナル進歩ヲナシテ今ノ面目ヲ一新スベキカ實ニ測リ難キコトナリ左レハ我輩ハ讀者諸君ト與ニ此問題ヲ研究シテ預メ支那海軍ガ他日如何ナル有樣ニ至ルベキヤヲ論スルモ亦無益ノコニ非ザルベシ何トナルニ隣國ノ兵備軍勢ヲ知テ之ニ應スル護國ノ策ヲ運ラスハ國ノ獨立ヲ維持スルニ必要ナレハナリ

支那陸軍ノ大數ハ之ヲ知ルコ稍ヤ易シト雖𪜈其海軍ニ至リテハ甚タ曖昧ニシテ觀察ニ苦ム所無キニ非ズ是レ支那海軍ノ記錄缺乏シテ考徵スル能ハザルニ依テ然ル者ナラズ全体支那ノ海軍トハ我日本國若クハ歐米諸邦ノ如ク陸軍ト對峙シテ一個獨立ノ組織アルコ無ク言ハヽ陸軍ニ附屬シタル水軍ノ一種類ナルノミ蓋シ支那ノ軍制ニテハ國內ノ軍人ヲ八旗ニ分ナ滿州八旗、蒙古八旗、漢軍八旗合セテ二十四旗、出入攻守ノ任ニ當リ十八省外番ニ右ノ八旗ヲ頒ケ以テ總軍丁八十餘萬人ト聞エタル者ナレ𪜈是ハ四億餘萬ノ人口九十萬方里ノ土地ヲ鎭撫スル內國守衛ノ軍人ニシテ八十萬ト稱スレハ巨大ノ員數ナレド國土人口ニ比例スル片ハ固ヨリ多シト云フニ足ラズ左レハ此軍人ハ全ク內ヲ守ル丈ノ人數ニシテ外、東洋諸國ニ對シ或ハ歐米諸國ニ對シテ備フベキ兵力ハ別ニ其出途無カル可ラザルナリ此一面ノ責ニ當ルハ則チ今ノ支那帝國海軍ナリト雖𪜈元來陸軍附屬同樣ノ水軍ナレハ恃ンデ充分屈強ノ城壁トスルニ足ルベキヤ如何ン甚タ疑ハシキ次第ナリト云フベシ蓋シ嗣三年以前迄ハ支那ノ軍艦六十餘艘ナリシヲ近來頻ニ歐洲ヘ軍艦新造ヲ注文シ鐵艦砲艦合セテ百餘艘ニ至リタリト云フ其明細書ハ我輩ノ未ダ見ル能ハザル所ナレ𪜈此實數ヲ以テ名稱ノ相違無キ者ト看做スモ其中ニハ必ズ古式製ニシテ今ノ實用ニ供シ難キ者モアリ或ハ既ニ腐蝕破損シタルモアルベシ但シ支那政府ヨリ先頃日耳曼ノ造船場ヘ注文シテ製作セシメタル定遠、鎭遠、濟遠等ノ諸鐵艦ハ既ニ落成シタル由ニテ甲鐵大砲機關トモ西式新改良ノ者ナリト云ヒ此外ニモ砲艦、水雷火船ノ注文許多ナリシト云ヘハ此等ノ落成次第皆支那海軍ノ列ニ加ハツテ其兵力ノ强ヲ增スベキハ勿論ナレ𪜈福建省沿岸ノ海防事宜ニ任スル張佩綸ト云フ人ノ上疏文ニテハ當時支那海軍ニ於テ實用新式ノ軍艦ハ北洋ニ二艘南洋ニ五艘都合七艘ノミナリトアリ之ヲ推シテ考フルモ支那ノ海軍其名ハ百餘艘ノ軍艦アレ𪜈其實ハ日耳曼注文ノ新造艦ニ此七艘ヲ加ヘシル僅々十餘艘ノ艦隊ノミナラン歟豫テ我輩ガ聞知セシ處ニ據ルニ從來支那政府ガ軍艦ヲ得ルノ法ハ重ニ福州上海等自國ノ造船所ニテ製作スルヲ常トシ明治九年始テ四艘ノ軍艦ヲ英國ニ注文シ尋テ十二年更ニ四艘ヲ注文セシ以來ハ本國ニテ軍艦ヲ造作スルト同時ニ續々外國ニモ注文スルニ至リタルナリト云ヘハ百餘艘ノ軍艦モ多クハ會內國ノ自製品ニシテ彼張佩綸ガ南北兩洋七艘ノ外ニ新式實用ノ軍艦ナシト明言セシモ亦或ハ實際ノ申條ナルベシ且我輩ガ更ニ聞得タル處ニテハ支那ノ軍艦ハ楊子江黃河ノ沿岸或ハ天津、芝罘、上海、廣東等ノ近海、波靜ニ風穩カナル場所々々ヲ巡邏スル江河用ノ小軍艦多クシテ暴風怒濤萬里遠洋ノ上ヲ縱橫シテ敵艦ヲ蹂躪スベキ程ノ構造ヲ具有スル者トテハ誠ニ僅少ナル由ナレハ現在支那海軍ノ恐怖スルニ足ラザル亦推シテ知ルベキナリ又支那國ニ於テ古來ヨリ水兵ト稱スル一軍アリテ長江ノ水戰ニ熟練ナリナド言傳ヘ先ニ老將彭玉麟ガ江南ノ水師提督タリシ片ニハ盛ニ此水軍ヲ練習シ又前兩江總督左宗棠モ其治下長江沿岸數十ケ處ニ漁團ト稱スル新營ヲ設ケ水邊ニ生長シテ舟漕キ水泳キニ熟達スル者共ヲ團結シ國家ノ防禦ニ備フルトテ大ニ盡力シタリシトノコナリシガ方今萬國ノ海軍水兵ト稱スル者ハ斯ル船頭舟子同然ノ團結トハ雲泥月鼈ノ相違ナルベシ又江南ノ水師、兵士ノ勇ハ勇ナランナト雖𪜈是モ漁舟小戰ノ兒戲ナルベケレハ之ヲ以テ支那ノ水軍ハ強シト云フ可ラズ長江近傍水淺クシテ流狹キ場所ノ懸引ニハ水門ヲ潛リ拔ケ又ハ船底ヲ穿ケコレヲ沈ムルナドノ故智ヲ擧ブニ容易ナラント雖𪜈海洋波濤ノ戰爭ニ臨マハ鉄艦穿ツ可ラズ海底潛ル可ラズ轉タ相率ヰテ水ニ溺死センノミ尤モ我輩ガ斯ク言フ所以ノモノハ敢テ支那ノ海軍ヲ輕蔑シテ一モ二モ恐ルヽニ足ラスト爲スニハ非ザレ𪜈現在ノ支那海軍ハ恐怖スルニ及ハザル者ナリト思惟セリ然ラハ則チ支那ノ海軍ハ到底恐怖スルヲ要セザル歟日ク否ナ我輩ハ支那帝國海軍ノ漸ク興起シテ他日世界ヲ恐怖セシムルノ時アランコヲ信ズルナリ

(未完)

## 電報

○六月十五日龍動發 エー、ビー、ワツトソン氏ハ日本政府のため一千萬圓の公債を約定したり
○六月九日龍動發 英將スチーブンソン氏は埃及に於て聯合軍の總司令長に撰ばれたり
○六月二十一日龍動發 ロズベリー侯ハ上院に於て上院の力を増さんため特撰委員會を設くるとの動議を起して永き討

議の末議院…
たる終身貴族の…
○六月二十三日…
たる處と見ゆ…
西班牙運河增…

## 雜報

○倫敦の日本…
致發上海よ…
のため二百…
事に付て…
人名等は…
書を裏捌う…
次第の大要…
號の布告を…
人よても此…
て此公債…
て年六分…
向三十ケ年…
る性質の公…
を接し本年…
貸よて買入…
實捌よ盡力…
東洋銀行(オリエンタルバンク)…
信用の減退…
たるものあ…
たりとひる…
所あらん…
○鐵道公債…
集結果の…
中山道鐵道…
あり之よ申…
く更に五百…
超過せる…
に據り減少…
(別紙)
中山…
一額面七百…
一額面貳百…
一額面五百…
總計…